

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年11月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	25	(依頼数)	27
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103136
事業所名	グループホーム はなの家
(ユニット名)	桜(4F)ユニット
記入者(管理者)	
氏名	二宮 啓太
自己評価作成日	R. 元 年 10 月 21 日

【事業所理念】※事業所記入 ～ぬくもりは我が家のように～ ① 利用者に対して家庭的な環境のもとで生活を営むことができるよう支援する。 ② 利用者が安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援する。 ③ 利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ① 重度の利用者に対して、寒い日はユニット内の南側の陽のある場所で日光浴をしており、暖かくなってからは敷地周辺の散歩や近所のスーパーまで出かけたりした。正月には初詣、春はお花見ドライブをして重度の方も外出できるよう取り組んだ。 ② 利用者本人が自力で口腔ケアした後に、歯が欠けていないか抜けていないかを確認している。普段から口腔ケアをなかなかできない方もいるが、痛みや腫れがあれば訪問歯科で診て頂いている。 ③ 運営推進会議の開催場所を各ユニットのリビングで順番に行うようになり、毎回利用者が参加できるようになった。 ④ 調理は難しいが、食事の盛り付けもやしの根取り、クリスマスケーキのデコレーションなどを職員と一緒にやっている。 ⑤ 入居時には、家で使い慣れた食器類を持って来ていただくよう伝え、本人の愛着のあるものを使用できるよう支援している。白い茶碗では、ご飯が見えにくい方に内側が黒い茶碗を用意して頂いた。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 ユニットによっては、ペダル漕ぎをする利用者が複数おり、行った自分の名前の欄に花の飾りをつけるようにしていた。利用者の誕生日に、電子ピアノを弾くことが役割になっている利用者がいる。 昼食時、小柄な利用者の食事介助は小さめのスプーンですくって、箸で少しずつ口の中に運んでいた。口が開きにくい利用者には、職員が口を開けて見せていた。台所で食事をつくる音や匂いがしていた。皆で「いただきます」と挨拶してから食事を始めていた。職員は献立の内容を伝えてから介助していた。食事に集中しにくい利用者には、世間話をしながらゆっくり時間をかけて介助していた。
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常生活の中で利用者の思いや暮らし方の希望を汲み取り、把握できるように努めている。	◎			日々のかかわりの中で聞いた希望や意向は、本人の言葉をそのまま介護計画1表に記入している。さらに、本人の暮らし方への思いを整理し、共有化する取り組みを工夫してほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員視点で考えず常に利用者の立場、視点で職員間で検討するようにしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族やご友人の来所時には声掛けを行い、職員が知らない本人の情報を聞いたり普段の様子を伝えるようにしている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	知り得た情報は記録に残すようにしており、本人の日々の支援に生かすようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の関わりの中で利用者の表情やしぐさなどを見落とさない関わりを持つよう努めている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時や入居後、ご家族の面会時などその時々で話を聞く機会を作り情報を得るようにしている				入居前や入居時に本人や家族から聞き取った生活歴、生活環境、これまでのサービス利用の経過、趣味などの情報を入居者情報やアセスメントシートに記入している。その後には得た情報は、追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員は利用者との関わりの中で利用者一人ひとりの状況や状態、出来ることや出来ないことなどを把握するように努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中で様々な状況を把握するよう努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人がどのようなことを不安に感じているかさまざまな視点から検討し把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの生活パターンや一日の過ごし方など職員間で情報を共有して把握できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	今利用者が必要なこと、求めていることを職員は本人の立場になって考えるようにしている				月1回のカンファレンス時に、職員が情報を持ち寄り話し合いを行い記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者の生活が豊かで本人らしく生活を送ることができるのか職員間で日々検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	実践した内容や結果を元に課題を明確にするよう職員で話し合っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンスなどの時間に職員で意見交換し、反映された介護計画を作成している。				理学療法士が作成したりハビリ計画の内容を採り入れたり、健康状態によっては、主治医の意見を反映して計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人はもちろんご家族の要望や思いも反映された介護計画を作成している。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方に関してはご家族からの情報、日々の関わりから得た情報を元に本人らしい生活を送れるような内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族に協力を得る内容の介護計画にはなっているが、地域の人との協力体制が反映されていない現状がある。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員は介護計画に沿って日々の支援に取り組むようにしている				ユニット毎に一冊のファイルに綴じて共有している。 個人観察記録(介護記録)に介護計画の実践内容について記入する欄を設けているが、記録は少ない。ユニットによっては、実践状況の内容に下線を引いているが、記録量は少ない。管理者は今後「日々の支援につなげられるようなモニタリングに工夫したい」と話していた。 個人観察記録に記録しているが、介護計画に基づいたという点からは、情報量が少ない。 気づきや工夫、アイデア等の記録は、ほとんどみられない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個人観察記録などに実践した内容を記入し、職員が確認できるようにしている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人観察記録を活用し、その日に関わった内容や本人の様子などを細かく記入するようになっている				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの介護計画や毎日の記録を記入する中で確認することができている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	○	基本3カ月おきに見直しを行っている。利用者の状態変化がある際にはその都度見直しを行っている			◎	計画作成担当者が一覧表にして見直しの時期を管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケアカンファレンスを毎月実施し、職員間で話し合いの場を設けている。			○	月1回のカンファレンス時に介護計画のモニタリングと評価を行い、利用者全員の現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化があった時には職員で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。			○	身体状態の変化に伴い、見直しを行い、新たな計画を作成した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ケアカンファレンスを実施し、課題解決の話し合いをするようにしている。緊急案件がある時にはその都度集まり意見交換をしている。			◎	月1回のミーティング時には、前半に勉強会などを行い、後半はユニット別にカンファレンスを行っている。事故などの緊急案件があった場合は、その日の勤務職員全員で話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	普段より職員間とコミュニケーションを図り、会議の場でも職員がさまざまな意見や考えを出しやすいような雰囲気づくりを行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多少前後するが決まった日時に勉強会やケアカンファレンスを開催しており職員も周知している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ケアカンファレンスに参加できなかった職員にはユニットリーダーを通して会議内容を伝えるようにしている。			○	参加していない職員には、ユニットリーダーが会議録を見ながら説明している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	連絡ノートや利用者別の伝達ノートを準備して活用しているが伝達が漏れていることもある。			◎	伝達ノートに記入し、確認後に押印するしくみをつくっている。ユニットリーダーが印が揃っていることを確認している。家族からの伝達事項は、個人観察記録の伝達事項の欄に記入していた。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	さまざまな記録や連絡ノートなどを活用、職員間での申し送りを通して伝達を行っているが上手く伝達できていないこともある。			◎	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者一人ひとりがしたいことはどんなことか立場になって考え、実践につなげるようにしている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者に自己決定してもらうよう対応しているが意思疎通が難しい方も多く職員が判断していることもある。			○	昼食の配膳時、職員は、おかずをお盆に乗せて利用者「どれが良いですか」と選んでもらっていた。利用者は、「良いのにして」と返事をしていた。野菜にかけるドレッシングを選んでもらっているユニットもあった。
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者の話に耳を傾け職員主体の支援とならないよう日々注意して対応するよう努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々の利用者の生活ペースに合わせて日々対応するようにしており、職員の都合にならないよう支援している。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	職員から積極的にコミュニケーションを図り、利用者が表現できる明るい雰囲気作りを努めている。			○	職員は、テーブル席で利用者から見えるように、どんぐりを使って飾りを作っていた。毎月、運動会やゲーム大会、スイカ割り、ドライブなどの楽しみごとを企画して実施している。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。		日々の関わりの中で注意深く観察し、利用者からのサインを見逃さないよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	丁寧な言葉かけを意識して、日々利用者のプライバシーやプライドを傷つけないよう努めている	◎	◎	○	外部研修で勉強しており、ミーティング時に伝達研修を行っている。職員の気になる言葉かけや態度があれば、ユニットリーダーがその都度注意している。また、ミーティング時に話題に挙げて話し合っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	耳元近くで声掛けしたり、誘導中には声掛け時の利用者の様子もしっかりと観察し、一人ひとりに配慮した対応に努めている			○	職員は、居室でおむつ交換をした後、新聞紙で包み、居間で過ごす利用者に見えないようにして運んでいた。トイレで利用者がブザーを鳴らすと、台所に小さな音で聞こえる。職員は静かに行きサポートをしていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ誘導の際には周りの方に聞こえないように小さな声で声掛けしたりと、利用者のプライバシーには配慮しながら支援している				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際にはノックをして声掛けを行ってから入るように配慮してプライバシーには注意して対応している。			△	本人に声をかけて許可を得てから入室している。ユニットによっては、利用者不在時やベッドで長時間過ごすような利用者の居室には、自由に入出入りしているような場面が見受けられた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	仕事で知り得た情報は他に漏れないよう十分注意して個人情報保護に努めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	関わりを持つ中で利用者にも手伝いをしてもらったり、教えて頂いたり共に支えあって生活を送るよう日々関係性の構築に努めている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声掛けしたり、協力する中でお互いに支えあって暮らしていくことの大切さを職員は理解し対応している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	リビングでお話したり、お手伝いを一緒に行ったりと利用者同士が関わる場面を作るように支援している。			○	利用者の状態などを踏まえて席順を決めている。昼食後、職員がテーブルにお盆を用意すると、隣席の利用者の食器もお盆に乗せてあげるような場面がみられた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	基本利用者同士がトラブルとならないよう十分注意しているが、もし起きた場合でも職員がしっかりと対応し解決するように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人やご家族からいろいろと情報収集して把握するように努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人に馴染みのある場所など情報収集の中で把握し、実際にその場所に出向くなどの支援を行っている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご家族にも協力を得て馴染みの場所に行ってみたりと本人の大切にしている場所や人との関係が途切れないようにしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	来所時には居室でお話をしてもらい、時間を気にせずゆっくりと話せるように配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ホーム周辺を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出掛けたりと外出の機会を設けているが、毎日外出支援ができていないわけではない。	○	○	△	計画を立てて、季節の花の見物や、いちご狩りなどドライブを兼ねて外出ができるように支援している。個別に買い物に行きたいと希望があれば、近隣のスーパーに付き添っているが、機会は少ない。 目標達成計画に「重度の方が、戸外の雰囲気を感じることが出来るようになる」ことを挙げて、事業所周辺の散歩やドライブなどが出来るよう支援したが、機会は少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	利用者の外出支援は職員が対応することがほとんどである。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者さんでも体調面に注意しながら、寒い日はユニット内の南側の陽のあたる場所で日光浴をして、暖かい日は敷地周辺の散歩や近所のスーパーまで出かけた。正月は初詣、春にはお花見ドライブをして重度の方も外出できるよう取り組んだ。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	自宅に帰りたいとの希望があり、ご家族の協力も得て自宅まで帰る外出支援をした方もいる。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症について日々職員は理解を深めることが出来るよう関わり、支援を行っている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	関わりの中利用者に向か変化がないか見落とさないよう注意し、現状に沿った対応や支援を行うようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者ができること、できそうなことをしっかり見極め、職員が過度に対応しないよう注意している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者一人ひとりの役割や楽しみなど職員は把握して日々の中で実践するように努めている。				利用者の誕生日に、電子ピアノを弾くことが役割になっている利用者がある。午後から複数の利用者がテーブル席でパズルをしていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	職員は利用者一人ひとりの楽しみや出来る役割を把握し、日々の生活の中に取り入れ実践するように努めている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域との交流が出来る場には積極的に出向くようにして利用者が地域との関わりが途切れないように努めている。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	服装や見出しなど出来る限り本人に決めてもらい、本人らしい身だしなみとなるよう支援している。				屋食時にエプロンをつけて食事する人もいたが、膝にティッシュを何枚か広げて食事する人もいた。食べこぼしは、皆が席を離れてから職員が掃除を行った。爪や髪、履物などは清潔にしていた。 家族が用意した衣類や自宅から持参した衣類を着て過ごしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	定期的に来る移動美容を利用して、髪型など本人の好みに整えられるよう対応している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自己決定が難しい方が多い中、本人の気持ちを十分理解して職員は代わりになって支援するようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装になるよう対応している。またご家族にも声掛けを行い本人らしく季節感を楽しめるような洋服を準備してもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けには十分注意して本人のプライドを傷つけないようさりげなく支援するようにしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	理容、美容に関して訪問サービスの美容車を基本利用してもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の気持ちを理解して重度の利用者でも本人らしい身だしなみや服装が出来るよう支援している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さを十分に理解し日々利用者の対応、支援を行っている。				法人の管理栄養士が献立を立てており、それにそって食材が届く。調理専門職員や職員が調理を行っている。時には利用者も下ごしらえや盛り付けなど行うようだが、機会はほぼない。 旬の食材を使用した献立ではあるが、利用者の好みや昔なつかしいものなどを採り入れることは少ない。 利用者の状態にあわせて食器を用意している。箸は個別の物を使用しており、痛んだら利用者と一緒に近くのホームセンターに買いに行くなどしている。利用者の一人が、自分の箸を見せながら「これ色がいいやろ。この前買いに行ったんだよ」と話してくれた。 職員は利用者と一緒に食べながらサポートしたり、ユニットによっては、食事介助に専念して、後から同じものを食べている。小柄な利用者の食事介助は小さめのスプーンですくって、箸で少しずつ口の中に運んでいた。口が開きにくい利用者には、職員が口を開けて見せていた。 台所で食事をつくる音や匂いがしていた。皆で「いただきます」と挨拶してから食事を始めていた。職員は献立の内容を伝えてから介助していた。食事に集中しにくい利用者には、世間話をしながらゆっくり時間をかけて介助していた。 食事形態については、随時話し合っているが、定期的に話し合うような機会はもっていない。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理は難しいが、食事の盛り付け、もやしの根取り、クリスマスケーキのデコレーションなどを職員と一緒にやっている。食材の下準備や後片付けなど利用者にも一緒になって食事の準備に関わってもらっている。					×
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者によって出来る、出来ないことを見極め、出来る限り利用者と一緒に関わりが出来るように努めている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者の好き嫌いやアレルギーの有無など職員間で情報を共有し対応している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感を感じられる食材を使用したりと食事を楽しむことが出来るようにしている。					△
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりの身体状態に合わせた食事を提供しており、目でも楽しむことが出来るよう盛り付けにも配慮している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時には、家で使い慣れた食器類を持って来ていただくよう伝え、本人の愛着のあるものを使用できるように支援している。白い茶碗では、ご飯が見えにくい方に内側が黒い茶碗を用意して頂いた。持ちやすいように取っ手のついたコップを使用したり、軽く落としても怪我をしないよう軽いプラスチック素材の食器を利用している。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	見守りをしっかりと行い、さりげなく声掛けを行う中で利用者が安心して食事を楽しめるよう配慮している。					○
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度の利用者でも食事は他者とりビングにて食べるようにしており、その中で食事のにおいや雰囲気も楽しんでもらえるよう対応している。	◎				○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	その時の利用者の状態に合わせた食事の提供をしており、水分に関しても一日の摂取量が少なくならないよう対応している					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分をあまり摂らない方には本人の好みの飲み物に変えてみたり、時間を空けて再度声かけを行ってみたい工夫しながら日々対応している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立は基本管理栄養士が栄養バランスを考え献立を立てている。行事の献立は栄養士に相談している。					△
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理時には衛生面に十分配慮して対応している。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性、重要性を職員は理解し日々の口腔ケアを実施している。				訪問歯科を受診している利用者は、診療情報提供書で口腔内の状況を把握している。他の利用者は、口腔ケア時の目視にとどまっている。 毎食後口腔ケアを行えるよう支援している。洗面所横の棚に、利用者の名前を表示して、コップや歯ブラシなどを置いている。車いすの利用者は、職員が声をかけると、自走して洗面所まで行き、棚から歯磨きセットを取って歯磨きを行っていた。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際には利用者の口腔内を確認し、異常がないか確認しながら現状の把握に努めている。一人ひとりに状態に合った口腔ケアを日々実践しながら、利用者本人が自力で行う方は、口腔ケアした後に歯が欠けていないか抜けていないかなどを確認している。痛みや腫れがあれば訪問歯科で診て頂いている。					○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科衛生士の口腔ケアを実施している利用者があり、職員はアドバイスや助言を活かし日々のケアに努めている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	定期的に義歯洗浄剤を使用したり、職員が利用者にとって代わって清掃したりと安心、安全に義歯使用できるように支援している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来ない部分を職員が対応し、出来る限り本人が口腔内の清潔が保持できるよう日々支援している。					◎
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	何か異常がある時には歯科往診を利用できる体制が出来ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者一人ひとりの状態に合わせた排泄支援を心掛けており、日中は出来る限りトイレ誘導を行ったりと排泄の自立の重要性を理解している。				職員が気付いた時やミーティング時に話し合っており、紙パンツから布パンツに変更したケースが複数ある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘が引き起こす問題や影響について職員は理解して対応している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を日々活用しており、利用者の排泄パターンの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態に合わせ、出来る限りトイレ利用が出来るように支援している。	○		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で改善点がないか検討しており、実践に繋げるように取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	日中、夜間の排泄パターンを把握し職員は早めの対応が取れるよう支援している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	利用者の状態、状況についてご家族に相談する機会も設けており、その時の現状に沿った対応が出来るように努めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態の変化にも対応できるよう柔軟に使い分けするように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘の利用者には起床時に冷たい牛乳を飲んでもらうなど薬だけに頼らず自然排便を促すように対応している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴の時間や本人の希望なども聞きながら日々入浴できるように支援している。	◎		○	週3回、午後に入浴を支援しているが、希望があれば午前中に支援をすることもある。 アセスメントシート(1)の入浴の欄に「シャンプー好きでない」と記入がある利用者には、シャンプー時の声かけに配慮している。 同性介助の希望や固形石鹸を使うことを好む利用者に応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと湯船に入られたり、入浴剤を使用したりと入浴を楽しめるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安全面には十分配慮し、利用者が安心して入浴を楽しめるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否される方には入浴日を変更したり、時間を変えて声掛けを行ったりと無理な対応とならないよう注意している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日の健康状態をしっかりと観察し、入浴前には血圧測定するなど入浴する際には十分配慮している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	職員は利用者の睡眠パターンを把握して夜間の対応を行っている。				薬剤を服用する利用者は、主治医に状況を報告して相談しながら、減薬に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活リズムを整え夜間利用者が安眠できるように取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	何か問題があればご家族や主治医と相談し、その時の状況をしっかりと見極め適切な対応が出来るように支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の状態に合わせ休息する時間を作るなど適切に対応をしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話がかかった時には本人にも出るようにしている。手紙のやり取りは現状難しく行えていない。				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙を書いたり、電話するなどの機会はあまりない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話についてはご家族に連絡を取らせてもらいお話してもらうことはある。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙などが届いた時には職員が連絡を取り、本人にもお話してもらうように対応している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族からお手紙をいただいたりすることや、気兼ねなく電話してもらうよう声掛けしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の大切さや使う事の意味を理解して職員は利用者の支援を行っている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	近くのスーパーへ買い物に出掛けたりとお金を使う機会を作るようにしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣にあるスーパーなどを利用し日頃より理解を深めるよう努めている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族にも相談させてもらいお金を使う事が出来る場面を作り支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	基本お金は職員で管理しているが、希望がある方は自分で所持して管理している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	ご家族にも説明の上職員がしっかりと管理するようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者一人ひとりの状況に合わせ柔軟に対応できるように日々取り組んでいる。	◎		◎	専門医の受診は、家族の都合や希望に応じて職員が付き添い支援している。 看取り支援時に、家族から居室に宿泊する希望があれば支援している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	ホーム入口には花を飾ったりと明るい雰囲気誰でも気軽にホームに出入り出来るように努めている。	◎	◎	◎	一階の玄関前には寄せ植えの鉢を並べていた。 玄関を入ると事務所があり、職員がいる。ソファの上で猫が昼寝をしていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等)。	◎	照明の調整や季節感を味わえるような壁紙を作成して飾ったりと過ごしやすい環境作りに努めている。	◎	◎	◎	定期的に生花が届くようになっており、台所のカウンターに生けていた。 ベランダは居間から段差なく出られるようになっており、花壇で花や野菜を育てている。吊るし柿を作っていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日差しや風には配慮してリビングで過ごしやすい環境を作っている。				居間は日当たりが良く、室内で日光浴などするようだった。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、行事や季節に合った飾り付けをしたりと居心地の良く生活できるよう工夫している。				午前中に業者が床掃除を行っていた。 小さめの音量で重誦を流していた。昼食時にはテレビを付けニュースを流していた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはテレビやソファがあり、利用者同士が気軽に話したり、他者と触れ合える環境作りをしている。				家族が持って来てくれたシクラメンの鉢をテーブルに飾っていた。ユニットによっては、水槽にメダカを飼っていた。 居間で新聞を読む利用者がみられた。 雑誌や歌本を用意している。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	リビングから見えない場所にあり、使用後は必ずドアを閉めるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室には使い慣れた家具や日常生活品を持ってきて使用してもらい、本人が過ごしやすい空間にしている。	◎		◎	家族の写真などを飾っていたり、日用品を持ち込んだりしている。家族が花を生けてくれた際には、世話をすることが難しい利用者の代わりに、職員が水を替えるなどしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の入り口には名札を貼ったり、トイレやお風呂場には目印があったりと利用者が混乱しないよう分かりやすい工夫をしている。				トイレの使用時間が長い利用者が、立ち上がる時にふらつき、壁と便座の隙間にはまり込むようなことがあったため、安全に利用できるよう、隙間に台を置いていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者が混乱しないよう物を多く置かないようにしており、生活環境を整えるように注意して対応している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	掃除がすぐに出来るようにほうきとちりとりが置いてあったり、新聞や雑誌を置いてあったり誰でも気軽に使用出来るようにしてある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットの出入り口は施錠していない。誰でも出入りが出来るようにしてあり、施錠がもたらす弊害を職員は理解して対応している。	◎	◎	◎	職員は、外部研修で「虐待・身体拘束について」で学んでいる。その内容について伝達研修を行い、全職員で勉強している。 日中、玄関やユニットの出入り口は施錠していない。ユニットによっては、利用者の状況により一時的に施錠することがある。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	常時鍵はかけておらず、ご家族には施錠していないことをお伝えしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	常に利用者の様子を観察し、適切な対応を行うことで鍵をかけないケアにつなげている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員は利用者の既往歴や現在の病気などを把握して日々の支援を行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者に変化がないか対応時には注意しており、変わりがあれば個人観察にその様子を記入し職員間で共有するようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがある時には管理者に相談しており、何らかの対応が必要なことであれば主治医に報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人やご家族が希望される医療機関に受診や診察が受けられるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人やご家族の要望をお聞きし、納得された医療機関で診察を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	診察の結果についてはご家族に報告するようにしており、必要時には直接主治医から説明を受けてもらうよう支援している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には利用者の情報提供しており、本人のストレスの軽減に努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	医療関係者と連絡を密にとり利用者が安心して治療に専念出来るよう支援している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	母体病院と常に連携を図っており日頃より緊急時の対応が出来るようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何か気付きがあった時には管理者へ報告しており、看護職には管理者を通して相談や報告を行うようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時でも連絡、相談できる体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	母体病院連携を図り、利用者が適切な対応が受けられるよう日々支援している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	職員は薬の作用や使用方法、副作用について職員間で共有し理解して対応している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬時には必ず職員二人で服薬の確認を行い飲み忘れや誤薬の防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬を始めてから変化はないか注意深く観察しており、何か変化があれば適切に対応出来るように努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々様子を記録に記入しており主治医や看護師に報告するようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化や終末期のあり方については状態の変化ごとにご家族と話し合い、方針にずれがないよう確認、共有している。				入居時に、看取りの指針に沿って説明を行い希望を確認している。状態変化時には、主治医から家族に説明を行い希望を確認して話し合っている。看取り支援時には、新たに介護計画を作成して方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人と関わる全員が情報を共有して、同じ方向性の中対応できるようにしている。	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は職員の思いや考えを理解した上で現状出来ることの見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	現状できること、できないことをしっかりと説明し、同意を得た上で対応を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や家族としっかり連携を図りながらチームとして支え合う体制づくりを行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の心情や精神状況を十分に理解した上で支援出来るよう取り組んでいる。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修に参加したり、定期的に勉強会を開催し職員が学べるようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	母体病院と連携し、スムーズな対応が出来るような体勢となっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	運営推進会議の時や保健所のホームページなどから情報を得るようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の情報について情報収集を行い、スムーズな対応が取れるように対応して。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗いやうがい、アルコール消毒などを行い、来訪者にもアルコール消毒を行うよう促している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者と一緒に生活を送っているという気持ちの中互いに支え合っていく関係作りに努めている。				行事の際には、来訪時や電話で声をかけている。はな祭りや敬老会、夕涼み会などは、手紙でも案内してエレベーター内にポスターを貼っている。本人の誕生日時は、家族の都合を聞いて日程調整することもある。 月1回、職員が利用者の状況を手紙に書いて報告している。必要に応じてユニットリーダーや管理者も書き添えている。 年2回、はな便りを発行して、外出や行事、取り組みなどの状況を、写真にコメントを付けて報告している。 行事については、年2回、発行するはな便りで報告している。新入職員があれば、名前などを書いた紙をユニット入口のドアに数ヶ月間掲示している。町内会と法人合同の防災訓練の実施内容と消火設備の点検結果を家族に送付した。 家族来訪時には、職員から積極的に声をかけて利用者の様子を報告し、意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	ご家族が気軽に来所出来るような明るい雰囲気作りを職員は心掛けて対応している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	ホームでの行事の案内をしたり、家族会を年2回行ったりと、家族と一緒に過ごせる機会を作っている。	◎	◎		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	一か月の様子を手紙にしてご家族に伝える取り組みをおこなっている。必要時には電話連絡も行っている。	◎	◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族とも積極的にに関わり、家族が知りたいこと不安に思っていることを把握できるように努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族が良好な関係の中支援を継続して行えるよう職員は務めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	変更時にはその都度ご家族に説明し理解を得るように努めている。	○	○		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	年2回家族会を開催しており、家族同士が交流出来る環境を提供している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ケアプランの変更時や状態の変化があった時など家族にしっかりと説明して対応策を話し合うようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	◎	来所時には職員から積極的に声かけを行い、気軽に相談できるような状況となるように努めている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約については管理者が十分な説明を行い、理解、納得を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去時には本人や家族が混乱しないようしっかり説明しており、トラブルとならないよう退去先とも連絡を取り情報共有を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の改定時には速やかに家族に説明を行い同意を得るように努めている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などの場面で説明や報告を行っている。		◎		法人主催のはな祭りは、チラシを回覧板で回したり、町内会の掲示板や商店にポスターを貼らせてもらうなど、地域の協力を得て毎年盛大に行っている。小学校の「ふれあいクラブ」の生徒の定期的な訪問や小学生の体験学習を受け入れている。保育園とも交流があり、敬老会には園児が来訪し、保育園の発表会には利用者が訪問した。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域住民と触れ合えるような行事や場面を設けたり、地域の行事に積極的に参加するようにしている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎年開催しているはなまつりや様々な行事を通して地域住民と触れ合い、グループホームや認知症についての理解が広がっていると感じている。				
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方が気軽に来られるような機会はあまりない現状がある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ホームがある場所や周りの環境も影響しているのか、地域住民が気軽に来られることはほとんどない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	運営推進会議の場を活用し、地域住民やボランティアへの声掛けを行い働きかけを行っている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	さまざまな地域資源を活用する事で利用者が楽しく豊かな生活を送れるよう支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣の小学生との交流や地域の行事参加などを通して関係を深めるよう取り組んでいる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回の運営推進会議では家族や町内会長、民生委員などが参加されている。運営推進会議の開催場所を各ユニットのリビングで順番に行うようになり、毎回利用者が参加できるようになった。	○		◎	毎回、利用者や家族、地域の人々が数名ずつ参加している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	会議内容は様々だが毎回各ユニットの近況報告や行事報告、職員が参加した研修内容の報告なども行っている。			○	外部評価の結果、目標達成計画と取り組み状況については、資料をもとに説明している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	職員からの報告や話ばかりとならないよう、参加者からも意見が出やすいような雰囲気、声掛けを行うようにしている。			◎	△	意見や提案等は出るが、その場で返答することが多く、サービス向上に活かしたり報告したりするような取り組みは少ない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	平日の開催となるため参加者に偏りがあつたり、出席者が少ないこともあるが、いろいろな方に参加してもらえるよう声掛けしている。				◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録の内容は各関係者に送付したり、はな便りにまとめて掲載するようにしている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所理念の元利用者が家庭的な環境下で生活を送れるよう日々のけあに努めている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事業所の理念、各ユニットの理念があり誰でも分かるよう掲示している。	○	◎			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内での研修が開催されたり、研修に行きやすい環境の整備をしてもらっている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員に合った研修があれば声掛けを行ってもらっている。また研修に参加しやすいよう勤務も配慮してもらっている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は職員個々の状況把握に努め配慮してくれている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	毎年開催している相互研修に参加したり、研修先での他の事業所職員と情報交換などを行っている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	夏休みや正月休みなどを取れるように勤務の配慮をもらっている。	○	◎	○		年2回、法人主催の食事会がある。法人でストレスチェック制度を導入している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会を通して虐待についても学ぶ機会を設けており、知識を深めたり、職員間で意見交換を行っている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	勤務中やユニット別のケアカンファレンスに参加して職員の対応について振り返りや意見交換を行っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段より虐待や不適切なケアが行われていないか十分に注意しており、発見した場合には管理者に報告するなど適切な手順、対応を行っている。				○	職員は外部研修で「虐待・身体拘束について」で学んでいる。その内容について伝達研修を行い、全職員で勉強している。不適切なケアを発見した場合は、その場で話し合いユニットリーダーに報告し、ユニットリーダーは管理者に報告することとなっている。また、ミーティング時に話し合うこともある。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	代表者・管理者は日々職員の疲労やストレスについて気に掛けてくれており、声掛けや勤務の見直しなどをしてもらっている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束について職員は日々理解を深めるよう努めており、正しい理解の対応に努めている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	内容によって身体拘束に当たらないか職員間で検討しており、適宜話し合う機会を設け取り組んでいる。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	やむ終えない事情がある時以外基本身体拘束を行わず、その点を家族に十分説明し理解を得るようにしている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	施設内での勉強会で権利擁護について学ぶ機会を作り、知識を深め理解に努めている。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	どのような制度があるか利用者や家族に説明したり、相談にのったりと適切な制度が受けられるよう支援している。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	様々な制度が利用できるよう関係各機関と連携体制を整えスムーズな対応が出来るよう努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	職員はさまざまな事故や急変時の対応について適切な対応が出来るよう周知に努めている。					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	研修に参加したり、勉強会の時間を利用し定期的に学ぶ機会を設けている。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ちいさな事案でもヒヤリハットを記入するようしており、職員で共有し再発防止につなげて。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日頃より利用者一人ひとりの考えられるリスクについて検討するようしており、実際に事故が起きないように職員は支援を行っている。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合には適切な対応が取れるよう職員間でその都度検討するよう努めている。					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情の対応については速やかに対応を行い問題の改善に努めている。また必要時には市町にも報告を行っている。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の対応については内容の確認・改善について速やかに検討し、前向きな話し合いの中で良い方向となるよう関係づくりに努めている。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別に職員が聞く機会が多く、聞いた内容は職員を通して管理者に報告している。			○	運営推進会議時や個別に訊くなどして機会をつくっているが、意見や要望は少ないようだ。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議や個別に家族からの要望や苦情についてお聞きしている。	◎		○	運営推進会議に参加する家族は機会がある。参加が少ない家族には参加を促し、機会づくりに努めている。年3回の家族会のうち、1回は意見や要望等を訊く機会をもっている。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	管理者が情報提供を適宜行っている。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は気軽に職員への声掛けして下さり、さまざまな意見を言えるように配慮してくれている。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は日頃より職員の意見や考えを把握し、利用者がよりよい支援を受けられる検討している。			○	月1回のミーティング時や、日々の申し送り時に意見や提案を聴き、検討している。また、職員はレクリエーション係や便り作成などの役割を持ち、意見や提案等を出して管理者とともに検討している。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の重要性を理解し、振り返る良い機会として自己評価に取り組んでいる。					
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	結果を職員全員で共有し、課題や現状を改めて見直し、改善していくための機会として活かすようにしている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の結果を精査し、事業所として取り組むべき目標を計画し実践するようになっている。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などを通して報告しており、今後の取組みなどのモニターとなってもらっている。	○	○	△		運営推進会議時に、外部評価の結果、目標達成計画と取り組み状況については、資料をもとに説明している。家族には、来訪時に手交したり、送付したりしている。モニターをしてもらう取り組みは、行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画した内容について精査し、取り組みについての成果を職員間で確認している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害時のマニュアルを作成しており、職員はいざという時に適切な対応が出来るよう周知に努めている。					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的避難訓練や消火方法などの訓練を実施しており、職員が災害時に適切な対応が出来るよう努めている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的を確認している。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	近くの消防署の協力の中地域住民と合同での防災訓練を実施している。	△	◎	◎		小学校で行う地域の防災訓練には、管理者が参加している。防災訓練は、法人の敷地や建物を使用し町内会と合同で行っており、地域の人が40名程、参加した。また、運営推進会議も併せて行い、相互の協力体制について話し合っている。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域住民と合同で防災訓練を実施したりと日頃より災害についての知識を深め、対策についての取組みを行っている。					さらに、家族アンケート結果をもとにして取り組みに工夫してほしい。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	運営推進会議の場では事業所としての取り組みについてのさまざまな報告をしており、情報交換・発信に努めている。				民生委員など、地域の人から入居相談等があれば受けているが、今後は、地域のケア拠点としての取り組みに工夫してはどうか。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	ご相談がある時には随時相談支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	ユニットでカフェを開催したり、地域との合同防災訓練の場所として活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	以前は実習者の受け入れを行っていたが、現在はあまりない現状である。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地域包括支援センターや他の事業所と連携を密にとり積極的に地域活動に参加するよう取り組んでいる。			○	